

2025年7月8日

各位

 会社名株式会社トランスジェニックグループ
代表者名代表取締役社長 福永 健司 (コード番号 2342 東証グロース)
問合せ先取 締役 船 橋 泰 (電話番号 03-6551-2601)

## 当社連結子会社(株)トランスジェニックにおける 「マイクロ CT を用いた髄腔内投与および脳脊髄液採取の検討」に関する学会発表について ― 微量な中枢投与と脳脊髄液の回収を可視化! ―

当社連結子会社の株式会社トランスジェニック(代表取締役社長:高島浩二、東京都千代田区、以下、「トランスジェニック」)は、第52回日本毒性学会学術年会において「マイクロ CT を用いた髄腔内投与および脳脊髄液(CSF)採取の検討」として中枢神経系試験の技術開発成果(以下、「本成果」)を発表しましたので、お知らせいたします。本研究は、新規サービスとして展開予定の遺伝子改変動物を用いた中枢投与技術の信頼性と、安全性観察手法の確立を目的とし、次世代核酸医薬・抗体医薬の開発を支援する評価系の整備に向けたものです。

- 演題:Investigation of Intrathecal Administration and Cerebrospinal Fluid Sampling Using Micro-Computed Tomography
- 演 者:Kazuki SATO<sup>\*1</sup>, Makoto KONNO<sup>\*1</sup>, Yuko DOI<sup>\*1</sup>, Takuya OISHI<sup>\*1</sup>, Mayumi KAWABE<sup>\*1</sup>, Masahiro MOCHIZUKI<sup>\*1</sup>, Masaaki KURATA<sup>\*1</sup> (※1 Trans Genic Inc.)
- 学会:第52回日本毒性学会学術年会 <u>https://www.jsot2025.jp/</u>

【発表概要】

◆市場背景と中枢神経系評価の新たなニーズ

近年開発がすすむ核酸医薬や抗体医薬などの「バイオ医薬品」は、臓器や種によって反応が異なるため、 標準的な動物モデルでは効果や副作用の正確な評価が困難です。

ICH S6 ガイドライン<sup>※2</sup>では、ヒト化受容体を持つ動物モデルの使用が推奨されており、当社はその開発 と応用に強みを持っています。今回の発表において、マイクロ CT を用いた薬剤投与の可視化および精度の 高い脳脊髄液の回収技術を確立しました。

※2 バイオ医薬品の非臨床安全性評価に関する国際的なガイドラインです。

◆試験概要及び成果(概要)※詳細は、添付発表ポスターをご参照ください。

項目	内容
動物	ICR マウス (雌) 8 週齢
投与法	脊髄くも膜下(髄腔)内投与(IT 投与)
観察方法	マイクロ CT (針先と薬液の位置を確認)
脳脊髄液の採取	専用針で 10µL 回収(血液混入リスク低減を検討中)
異常所見	軽度の行動異常(高用量群で一部確認)以外は良好

◆今後の展開

本成果は、中枢神経系を標的とする医薬品の非臨床試験において、安全かつ再現性の高い評価を実現する技術基盤となります。今後は、CSF回収法の改良(血液混入防止)、投与条件のさらなる最適化、受託試

験サービスとしての事業展開を進め、製薬企業との連携を加速させます。

今後も、トランスジェニックは「評価できないものを評価できるようにする」を信条に、創薬の発展に 資する技術開発を推進しております。今回の成果も、次世代医薬の適切な安全性評価という社会的課題へ の一歩と捉えております。

以上



## **Discussion and Conclusion**

The crouching position and walking with running in the locomotion activity observed in the general observation of Group B are considered to be due to the dosage, since no abnormalities were observed in Group A. The individual with the crouching position was also observed to walk with the top of its head pressed against the floor.

In addition, although it is possible to collect CSF over time, we choose to collect it after blood removal because we cannot completely eliminate the risk of blood contamination. For this issue, we are currently exploring improvements to the collection device to reduce blood contamination.

COI Disclosure Information Kazuki Sato

In connection with this presentation, there is no COI to be disclosed with any companies.